

たまに、ごちそうになる。

「この店はグルメ本の常連だ。気に入ったか？」と招待主が聞く。

たまにだが、ちゅうちょする。まずいのだ。口に合わないのだ。

親しい間柄なら「味が、ちょっと」と言うのだが……「お偉方」だった

りすると「ありがとうございます。実においしかった」と答えてしまう。

ああ、俺って、うそつきだ！

聞く方も社交辞令。答える方も社交辞令。このくらいのもはや許される

店にとって「まずい！」と正直に言

牧太郎の

# 大きな声では言えないが...

う客がいた方がよい。グルメ本で褒められただけで、努力しない。これは「壮大な楽観主義」ではないか？

8月にこのコラムで「東京五輪病」を返上！と書いたのは、同じよ

例えば、日本最大の見本市会場「東京ビッグサイト」。約20カ月間、東京五輪の放送施設になる。一般社団法人「日本展示会協会」の試算によ

ると、その結果、232本相当の見

## 壮大な楽観主義？



うな気分だった。日本人の多くがうすす「東京五輪はまずい！」と気が付いているのにならうそをついている。

「迷惑だ！」と思っているのに「お国のため」と我慢している。

本市が中止になる。右半身まひの僕は、毎年、新しい介護用品を求めて、見本市に行く。これが中止になるかもしれない。介護用品を作る企業の広告宣伝費は

ほとんどゼロだ。見本市が「頼り」なのに、それができなくなる。ビッグサイトを利用する企業は約7万8000社。そのほとんどが中小企業。見本市が無くなる

と、約2兆円の売り上げが失われるという。東京都は「仮設館」を造るといいますが、それでも、今までの54%程度しか展示できない。海外の企業は、この間に中国、韓国、香港、シンガポールにシフト

するだろう。東京五輪は「有名だが、味が最悪のレストラン」のような存在。「壮大な楽観主義」に支配されている。五輪の開催コストを冷静に計算しよう。そうすれば「誰か」が五輪で

（客員編集委員）